



# 『0人芝居』



額縁舞台用戯曲

青村豆十郎

## 前書き

---

大学の演劇サークルで書いた初めての戯曲。

筆者が演劇論について考察を進めていた頃の思い出深い作品である。

最初は『演劇的極限状態おける諸現象の観察』という題が付いていた。

必要な役者は2名。1は男優、2は女優であったが、拘らなくても良い。

この作品に関して、上演許可は不要。改作も任意とする。

## <<冒頭 独白部>>

(照明 : BL 0,SL 40orLR90,UH 0,CL 80)

(無関係に思い思いのモノ達が散らばっている舞台。2はそれが演技だとは悟られないくらいに軽く舞台上に現れ、観客席の方に向かって溶け込む。)

(照明 : BL 30,SL 40orLR90,UH 30,CL 80)

(BGM : CI : 出だしが激しい、空白部のあるクラシック曲)

1 : 演ってられないな。

*/\*(注釈)ゴドー冒頭\*/*

だれだ？ (振り向くのは目線だけ。)

*/\*(注釈)ハムレット 冒頭部\*/*

私こそ、誰だ！ 誰でも無い！！

.....。

舞台には誰もいない。

舞台には誰もいない。

舞台にはだれもいない。

ぶたいにはだれもいない。

演ってられないな。

.....。

ここは舞台だ、

きっと他より高くなっていて...(確かめようとして)...別に高くなっていなくても良いが、

この向こうには観客が居て...(確かめようとして)...居ないかもしれないが、

とにかく、私にとっての世界のすべて (すこし自信ありげに)、

このあまりにも限定された空間 (ここはすこしトーンを落としながらも)、

もちろん、そうでなくては困るのだ。(自信に満ちて)

今のところ、ここ以外に私の世界は無い。(言い切り、満足して)

(BGM : FO : )

(BGMが消えたことに負けないように。)

ああ、いい眺めだ。*/\*(注釈)ゴドーより、プレヒト的メタシアター幻想として\*/*

(落ち着けるだけの間を取って、落ち着いた口調にして) 私は役者なんだろう。

*/\*(注釈) actorでなく、player 俳優じゃなくて遊び人としての役者 \*/*

役者であるということは現実の話であって、

「現実」はここでは意味がない。(意味がないも少し強調)

意味があるのは、(すこしだけ観客を意識して)

私は誰を演じているのか？。

誰を演じようとしているのか？。

誰を演じるべきなのか？。

ということだ。。。

(少しうわずって) つまり、今の私は「○○○○」(役者自分の名前)

という人間ではなくて、

この見た目には演技力を上乘せして別な「誰か」になっているはずなんだ。

(何かゾクゾクするように、少し早く) 私は誰を演じているのか？

もちろん、私は演じている「誰」ではない。(盛り上げて！)

！(しっかりと聞こえるように！)

それは虚構だ、しかし、ここでは虚構の方にこそ意味がある。

(盛り上げにうまく乗って)

演技の目的は今も昔も自然に向かって鏡をかかげ、

善なる物は善なるままに、悪なるものは悪なるままに、

世の中をあるがままにくっきりと映し出す事を目指しているのだ。

/\*(注釈)ハムレットより引用部\*/

(盛り上がったままの空白)

ただ、鏡のようにあべこべになるのは、右左ではなく、虚構と現実。

(余韻)

(自然に戻って、少しいらついたように)

ここは芝居だ、鏡の中だ。芝居には変化が必要だ。

変化が無ければ劇とは言えない。言えないところをもってさらに言えば、

その変化が「劇的」であれば.....別に劇的で無くても.....

いや、必要だな。断じて必要だ！(誰かに訴えているかのように)

/\*(注釈)多分、間違った表現\*/

舞台はそこに「劇的」変化を要求している。/\*(注釈)冒頭部 結論 劇的变化とは \*/

ここに変化をもたらすとすれば、だ.....。

(考える。うたた寝をする。起きる。また考える。観客が不安になるぎりぎりまで)

(BGM:沈黙、風の音。大きめに。 : )

(突如)「ああ、大変だ、大変だ、きっともう間に合わないぞ！」

/\*(注釈) 'Oh dear! Oh dear! I shall be late!' (「不思議な国のアリス」でウサギのセリフ)\*/

と叫びながら”懐中時計”を持ったウサギが現れる。

そしてそれを追っかける。

その後は裁判が終わるまで一

大きくなったり一小さくなったり一....。

そう、それがいい！それが、.....良くはないな。

もう少しこうオリジナリティーと、、、

そしてリアリティー、だいたい私にアリスは似合わない、

後はアフタヌーンティー、には遅れちゃ行けないやいやいやいや。

(また 少し考え込んで、もう一度考え込んで)

(BGM:観客を退屈にさせないような曲(つまり無意味):)

(独りで自分の目を掌で覆い隠し)だ〜れだ。

あはっ。(ハート)

(自分で自分の顔を覗き込もうとしてくるくる回ってしまう。)

(無理矢理振り返って)

誰もいない。(むなしい余韻)

ぶたいにはだれもいない。(そのときの役者の気持ちを映して自由な演技で)

だれもいない。だれもいない。

ぶたいにはだれもいない。

やっつけられないな。

(なさげなく訴えつつも慎重に始め、次第に感情を高ぶらせて)

私が誰かであれば！で・あるならば、で・ないとしても、

私が、わたしが、僕が、誰か。

誰か！？なんてそんなに偉い者ではなくて、、物だとしたら！、！

(BGM：BGMに乗って少しリズム取って待つ。何も無ければ風の音を)

ありうる話だ。0人芝居だと？！

登場するのがすべて人間以外ならそれでいいんじゃないか。

3匹の子豚は「0人芝居」、7匹の子山羊だって「0人芝居」だ、

うさぎとかめだって0！アキレスと亀はアキレスがいるから一人芝居だな。

”大きなカブ”はお祖父さんとお祖母さんと孫の3人か。

(落ち着いて)私は犬か！猫か！ネズミか！(自分に対して詰問するように)

(それに対する応えとして、とまどいも入れて)

ここは一つ、猫でいくか、ウォホン、私は、いや、我が輩は猫である。

このキャットウォークは心が落ち着く、それともネズミかな。

いや、カブだ.....

(地面に潜んで蕪の演技)

.....ヒトの形をしたカブ！

抜けるときに「ギャッ」と叫んで抜いた奴の命を奪う。

黒く染めた.....カブ。(ゆっくり気持ちが下がっていく)

.....人はまた、monoにすぎない。massに対してたったの一人。\*ラテン語\*/

だから、私の言葉は独白、独りぼっちの告白。(不気味に悲しく)

(泣きそうなところから始めて、少しずつトーンを大きくして反復)

私は、いや吾輩は、ぼくは、おれは、わたくしは、朕は、

あちきは、わらわは、拙者は、小生は、余は！(余は強調しすぎない)

余の言葉は余白、、余白は空白、空白、、私は誰だ？空だ！何も無い。

monoであるということが一ですら無くなる、

monoですら無くなるものならば.....

物ならば、たとえばここにおおきな柱時計、(柱時計を呪文により召還したように)

目には見えないがこのあたり一面にチクタクという音、音、音。(音をしっかりと捉える)

(後々、この部分の引用が行われるので印象づけ重要。)

その横には壁一面の本棚、百科事典と文学全集。

めったに読まれることもないからここでもきっちり並んでいる。

凶器と成り得る重さのブックエンド、、、

その上の段には無造作に並べられたお酒の瓶、ビン、ビン、瓶、瓶。

そしてその前に頑丈な木の机と椅子。

足をぶつけると痛いから芝居中には無意識によける。

現実は無意識してしまうと今度はぶつかる、困ったもんだ。

大きな窓とそこにくりぬかれた小さな風景、それすら覆い隠してしまうカーテン。

/\*(注釈) 「ウインザーの陽気な女房達」のような劇場風景を意識したような科白\*/

本を読むには少し暗すぎるような空間、

ああ、構わないからもう少しライトを落としてくれ！

(照明：素早くMFでFO：)

この現実感こそすべてに勝る贅沢品。

この雑然とした、ざーつーぜーんーとーしーた、空間。/\*ゴドーに同等のシーン\*/

(照明：FIというか、元に戻す。)

(さっきの机の位置を記憶しておいて)

机の引き出しをあける、さまざまなガラクタ……

消しゴムの欠片、ちびた鉛筆、書けないボールペンが1, 2の3本、

使えなくなったピット糊、三角定規、分度器、コンパス、

乾電池は単1が一本と単3が7本、単4、2本は未だあけてない。

使わないはずなのになぜかあるヘアピンとカラーゴム、

下敷き、ノート、レシートの山、融けかけたキャンディー、解いてない問題集、

画鋏、おはじき、グリコのおまけ、自転車から外した懐中電灯、

(何でも良いから思いつく限りの我楽多)

……そして…懐中時計がある。???

懐中時計…。

(観客に懐中時計を印象づけるように、少し考え込む)

(躊躇する1。しばらく悩んだ末に時計を取り、悩み、行動に移す。)

(時計をつかんで駆け出す。)

<<新聞の勧誘について>>

1：「ああ、大変だ、大変だ、もう間に合わないぞ。」

/\*(注釈) 前に出てきた白ウサギの科白\*/

(すかさず、追いかけてくる 2)

(必死に逃げる1, 前に回り込んで前髪をつかんで1を止める2)

1：君はアリス？

/\*(注釈) 芝居がかって観客の方に向かってしゃべる感じ\*/

2：では、貴方は自分が白ウサギであるとおっしゃるの？

1：それもありかな、(自分に耳やしっぽが無いかどうかを非常に注意深く確認して)

いや、違うぞ。

2：だったら、わたしはアリス・リデルじゃない。

さらに大国様でもなければ、神様でもない。

(1の方に向き直って)

1：じゃあ、

2 : 訪ねてきたの。

1 : 誰も待っていないぞ。 /\*(注釈) 時は待ってくれない \*/

2 : もちろんそうね。わたしもあなたに呼ばれてはいないわ。

だからわたしはゴドーでもないし、足長おじさんでもない。

1 : だったら、何。(不機嫌になってはいけない、優しくてもいけない。)

2 : 新聞の勧誘、、、あるいは保険の勧誘。でなければ、宗教の。

1 : 新聞の勧誘？

2 : わたしは別に呼ばれていなくても、待たれていなくてもかまわないわ。

自分から勝手にやってきてもリアリティーある訪問者の形態だから。

(いきなりおじさん口調)

あー、新聞は何をとってますか？。

? あ、どこもとってない?!

! じゃあ、読売新聞をとってよ、

もちろん、ほら、サービスいっぱいつけるからさあ、読売。

?、クオカード6枚つける、7枚つける!、

もう、一ヶ月分ただみたいなものだ、ね、っね、3ヶ月でいいから、3ヶ月。。

ねえ、助けてくれよ。おじさん今日、未だ一軒も契約取れてないんだ、

そうだ!、6ヶ月取ってくれるなら3ヶ月分タダ、ってどうだ??

1 : ...ああ、いや、新聞は結構です。

2 : ...結構? (優しく)

1 : つまりです、私にとって、ここが世界の全てであり、

ここが始まってから今までの間ここには何も起きていません!

(ということはだけナチュラルで)

ということは一、

2 : ということは?? (演劇的につつこむ)

1 : (慎重に) その新聞には何も書かれていないはずではありませんか。

2 : 何もってことは無いわよ。広告があるわ。(さらりと、)

1 : 広告? なんの広告だ。

2 : 新聞の広告と、保険の広告。宗教の広告。

1 : .....

2 : それから、尋ね人。

1 : 尋ね人?

2 : (新聞を広げるとそこに書かれている。) 「あなたはだれ?」

1 : .....

く、くはっははっはははっは、これはお笑いだ!!

確かに私は最初からそれで悩んでいたさ。

しかしね、私は作者相手に哲学の講義を受けるつもりはまったくくないよ

(もっと2に迫っていく感じで)

そう、まったく、これっぽっちもね。

新聞はお断りだ。いらない、そう、まったく、これっぽっちもね。

そうって、私はぴしゃりとドアを閉める。(大きな身振りで)

ぴしゃりとドアを閉める...しまった。(やっちゃったのしまった。)

(大きく！一つ一つが不思議な動作になるように！)

2：締まらない。

1：閉めるべき、ドアはない。

2：だから、

1：何をしにきたの？

2：尋ねに来たの。「あなたはだれ？」

1：それで。

2：訪ねに来たの。

1：それで、

2：尋ねてきたの。

尋ねてくるという事象に対するリアリティーある形態.....

としての新聞の勧誘か、保険の勧誘か、あるいは宗教の勧誘。(なぜか盛り上げて)

### <<保険の勧誘について>>

1：わかった、わかった、とにかく君を何か次に進めさせよう。(あわてて、引きつつ)

とにかく、新聞はいらない。\*(注釈) 勧めると進める \*/

(いきなりセールスレディの口調になって)

2：ガルディン生命から参りました。

当社からあなたにぴったりのプランのご提案があります。

まずこの書類を。(紙束を1に渡す)

(BGM：FI：雑踏音、ガヤ音)

(2に乗って演技をしようとしながらも、)

1：ふむ。(たちまち素に向けて感情が転がり落ちる。)

ああ、やっと来たね。

\*(注釈)近くにいる自分たちの作者(あるいは演出)のことを話しています。\*/

2：最初の挿入よ。(少し投げやりに)

1：少し、痛いね。(ちょっと、うれしげに)

2：そういうことを言わない。

1：で、何て言ってた？(ほんの少し投げやり)

(うちわの会話っぽさがほしい)

2：全体的にナチュラルにしてみるって。

全てを引用にしてみても1%も気づいてもらえないからって言ってた。

1：もっと、早く気づけよな一。(2に少し同意を求めるように)

2：仕方ないって、完全に内輪だけの会話じゃ何も説明されてないんだから。

1 : 露骨に説明しすぎだ。

2 : 結局わかってもらえないし。

1 : そんなことは、わかってるだろ。

2 : 進みますか？ (何気なく)

1 : ああ。

しかし、ナチュラルって、どうするんだ。(何気なく)

2 : う〜ん、なんというか、こう、まったり。かな。

1 : まったり？

/\*\*/

<<いざいざ>>

2 : ...と、(すぐに演技モード) ということになります。

(素を引きずった形で、)

1 : つまり、どういうことかな。

2 : どういうこととは、つまり、

いざというときの為に。(ちょっと、1に迫る感じで)

1 : いざと言うとき？ (ちょっと引きとまどいながら)

2 : いざというとき、(自信たっぷりに)

(演出家、役者の自由裁量でいざいざ)

1 : いざ？

2 : いざ。

1 : いざ、

2 : いざ、

1 : いざ

2 : いざいざ

1 : いざ？

2 : いざ。

1 : いざ、

2 : いざ、

1 : いざ

2 : いざ、いざ

1 : いざいざいざいざいざいざいざいざいざいざ

2 : いざ！！

1 : いざ？

2 : いざというときってありますよね。

1 : .....今は？

2 : .....違いますね。

1 : ふう、まったり。

2 : というわけで、いざというときにですね。

1 : いざという時ってどんなとき。

2 : 胸騒ぎが騒ぎになるとき。

1 : 胸騒ぎが騒ぎになるとき？

2 : 大騒ぎにならないように、備えておきましょう、  
備えあれば憂いなしとも申します。

1 : いざというときのための防災袋。

2 : この辺は地震が多いですから。

1 : いざというときのための予備電源。

2 : この辺は雷が多いですから、

1 : いざというときのための消火器。

2 : この辺は火事も多いですから。

1 : いざというときのためのアデランス。

2 : この辺は放射能漏れが多いですから。

1 : ...ちがう、ちがうな。

2 : なんか違ったわね。

1 : 大規模な災害を起こせるような設備も無ければ予算も無いはず、  
起きるとすればもっと、個人的な いざ だ。

そう、これは個人的な胸騒ぎ。

2 : 個人的な胸騒ぎ？

1 : そう、個人的な、もっとプライベートな いざ だ。

2 : プライベートな胸騒ぎ？

1 : そう、個人的な胸騒ぎ、プライベートな胸騒ぎ。

ドキが、ムネムネするのはなぜ、もしかして！

激しい動悸、燃える想い、この胸の痛みは！

彼女の手が、ゆっくり私の服のボタンを外し、、、

(2, 1の服のボタンを外し、胸に手を当てて、)

(出来れば色気を入れて、あるいはBGMでフォロー)

2 : 「心臓病ですね、」 これが、個人的ないざ。

えー、病気やけがの保険としまして、こちらのプランはいかがでしょー、

こちらですと、入院、通院、検査、手術、総合保障で、

1 : やめてくれ、私にけがや病気は関係ない。(服を元に戻しながら)

2 : では、ふつうの生命保険をおすすめいたしましょう。

このような言い方は失礼かもしれませんが、

死なない人間というのは存在しないわけですから。

1 : 人間でないとしたら？

2 : 構いませんよ、どんな物でも必ず終わりを迎えます。\*仏教的に\*

即ち、その者の「死」ということになります。(死を強調)

1 : 死んでしまった後はどうなる。

2 : もちろん、残される者に保険金が下ります。

(ちょっと調子を変えて)

このような世界ではあなたを、殺した人間の手に渡ると考えれば良いでしょう。  
現実の世界ではイコールそれが実の母親であったという、衝撃の事実も語られます。

(調子を元に戻して)

余命3ヶ月と指定されれば、ご本人様にお渡しすることもできますが、  
そんな時のお金はどのみち残される者の為に使われるものです。

1 : なるほどここでわかった、  
どうやら保険にも意味が無いということだ。

2 : "意味が無い"、とは、(丁寧に)

1 : 残される物がないのさ、  
私が死ぬとこの世界のすべてと一緒に消えてしまうから。

2 : そうですか、  
こういう言い方は失礼かもしれませんが、それはなぜですか。

1 : それは、そういうものだからさ！  
この世界は私が産まれると同時に創り出された。  
私が消えると同時に世界も消えるのだ。

2 : それこそ、ナンセンス。無意味ではありませんか？(ナンセンス、アクセントを)

/\*(注釈)1の 意味がない を受けている\*/

1 : いやいや、虚構のはなしだよ。/\*(注釈)現実の話だよ。の虚構世界的言い方\*/  
しかも考えてみよう、もしここでこれが現実の世界の話だとして、  
も、

「私が産まれると同時に世界が創り出され、  
私が消えると同時に世界は消える、」  
という考えを殺す事は出来ないだろう。

2 : 確かにそうかもしれませんが、  
しかし普通はそれを考えない事ですね。

1 : なぜだ。

2 : その方がいろいろお得だからですよ。/\*(注釈) 流される事の意味 \*/

1 : いろいろお得か。 /\*(注釈)結局ということの意味\*/  
(間をおかずに) わかった、その保険に入ろう。

2 : もはや結論ですか。

1 : いろいろお得なんだろ。/\*(注釈)新聞・保険の部の結論\*/

2 : もう少し、悩んだりして、粘りませんか。

1 : 先に進みたいんだ。(しっかりと言いきりで)

2 : わかりました。賢明な判断です。

ではその契約書を。

、、必要な事項を記入していただきます。（パントマイムで書類を渡す）

## <<時は金なり>>

1 : ああ、これか。(しっかりと目を通して)

こまったね。まず、名前がわからないんだ。

まったく、名前くらい用意してくれてもいいんじゃないか。

(1と同じ調子で繰り返す。)

2 : まったく、名前くらい用意してくれてもいいんじゃないか。

1 : さあ、書けた！事にしよう。

どうせ、このようなことも約束事だ。

/\*(注釈)作者の事が出てきています。\*/

2 : そうですか、では掛け金を。(すこしうれしげに)

1 : ここにはお金はないんだ。

2 : なんですか。

1 : さっきこのあたりを調べたとき、

あまりにも、いろいろな物が出てきたのは良いが

お金は出てこなかった。(さっきのことを無理矢理思い返すようにして)

2 : お金を払っていただかないと困ります。

1 : なぜだ。

2 : これは契約です。堅い約束事。

1 : 堅い約束事ってどのくらい堅いんだ。

2 : (重く)『石版に刻んで箱に納め、ケルビム2匹が守っています。』

(モーゼの十戒、)

1 : なるほど、しかし舞台上では約束事とは嘘の事なんだよ。

2 ; 嘘。

1 : 嘘じゃない。いや、嘘なんだ。どっちだ？ともかく

2 : ともかく？

1 : ともかく、この世界には嘘が多い。(少し投げやりに)

雪は紙吹雪だし、死体の心臓は止まっていない。

宇宙人が日本語を話す。

それがこの世界の法律なんだよ。

もちろん、本物の災害や死を持ってくると大変だからね。

2 : どうして、そんな法律を知っているの。

1 : この世界の法律には相当詳しいね。

わたしを越える法律顧問はそうそう居ないだろうよ。

/\*(注釈) <時は最良の法律顧問である。> \*/

2 : では、法律には従っていただかないと、

(もう少し格好を付けた言い方で)

1 : 仕方がないな、私がお金となろう。

2：あなた、福沢さん、新渡戸さん、それとも夏目さん？

1：もしかしたらそうかもしれないが、

違うね、

だいたい5000円札の人って何した人なんだ？

あんまり知られてないじゃないか。

1万円札の人はここが慶応大学じゃないからという理由で却下。

明治の文豪は考えられなくもないが・・・髭がない。

聖徳太子、伊藤博文、板垣退助.....

外国のお札も考なきやな。（ぶつぶつ）

2：もちろん、冗談です。

そんなに考えこまなくても結構ですよ。

1：私が誰かという問題は最初っからの大問題だったもんでね。

2：アイデンティティの崩壊は非常に現代的な問題ですよ。

/\*(注釈) 神のアイデンティティの崩壊が問題になるのは

人間がアイデンティティの重要性を考えるようになってからであろう。\*/

1：でも昔から考えて居るんだ。

/\*(注釈) 現代的な問題に対応して\*/

2：そんなに考え込まなくてもいいですよ。

1：では、考え込む前に話を戻してくれ。何の話だったかな。

2：つまり、あなたは我が社の為に働くということですね。

1：そんなこと、言ったかな。

2：私がお金になる。とそうおっしゃいました。

1：ああ、そうだね、つまりきっと、私は、そう、言いたかった、のだが、

しかし、何をさせるつもりだ？ 世の中、不景気だそうだ、仕事があるのか。

2：「芸は身をたすく」、と申します。

あなた何か特技とかお持ち？

1：さあ、これといって思い当たる節もないが...

2：じゃあ、体を売る？

1：おいおい、私は男だぞ！！ 多分.....

/\*(注釈) セクシュアリティの懐疑\*/

2：大丈夫、そういう趣味の人もあるわ。

1：「ゲイに身を託す。」さすがにそれは.....。

2：もちろん、冗談よ。

上の人意向を聞いて、それから決めましょう。

/\*(注釈) 上の人=神=作者

大局的モラトリアムの中で、会社などの身近な所属組織を象徴する物。\*/

1：上の人意向か、そろそろ続きがあるだろうな。

ついでに、私の名前も聞いてきてくれ。

2：そうするわ。

2：（上手へと消える。）

1 : (何か一言) /\*(注釈)完全に台本でない科白として\*/

## <<なにをすべきか>>

(BGM : すばやくFI : PINKの08 ;)

2 : (上手から出てくる。)

1 : で、何をすればいい。

2 : 止まっている、と。

1 : 止まっている？ それでは仕事にならんだろ。

2 : とまっている、なるべく動くな、もし可能なら前に戻れ、でなければ死ぬ。と。

1 : なぜだ、どういうことだ。

2 : あなたの場合はその方が仕事になる。と。

1 : 私の正体についてはなんて言った。

2 : あ、それはね。

1 : 聞いてきたんだろ。

2 : 一応ね。

1 : 教えてくれ。

2 : そうねえ、(あちこち、きょろきょろ)

1 : どうした、ん、ああ、向こうの方に居るはずだが？

2 : いるの。

1 : 多分、いや、あ、居てもらわなきゃ困る。が、

2 : ふうん。

1 : 観客に聞かれてはまずい話なのか？

2 : いえ、別に構わないと思うわ。

1 : そうか、それで...

2 : あなたの名前は ト

1 : ト、か.....。

ト、なんだよ。そんなもったいぶりは止めてくれ。

2 : だから、ト、よ。

1 : わかんないぞ。

2 : だから、ト、なんだってば。

1 : ああ、将棋の歩の裏返った奴ね。

2 : ちがうわよ。台本ならたいてい出てくるじゃない。ト、だってば。

1 : なんだそりゃ。

2 : ト、上手から幽霊登場。とか、

ト、ミュージック、フェードアウト、とか。

ト、辺り一面のお花畑へと転換。とか。

ト、役者全員退場。とか、

ト、暗転。とか。

1：ト書きか！

2：じゃないかしら、そんだけしか言ってなかったわ。

1：ト書きか、

そんなもの、どうやって演じればいって言うんだ？

2：書いてあるとおりにやればいいじゃない。

1：それならばいまでもせいっぱい、やっているよ、  
しかし、しかし、いつまで続けられればいい！

2：この出来損ないのコントみたいなのを？

1：出来損ないのコント？その方がまだましじゃないか。  
そのほうが、まだ、笑えるところもあるだろう。

2：でもこれだって退屈な講義を聴いているよりは...

1：ああ、そうだね！

せめて、講義を聴いているよりも良い安眠の場を造ろうじゃないか！

2：この茶番劇をいつまで続けるか.....。

1：茶番劇？劇と名乗るからには多少なりとも劇的にしてほしいね。

ここまでの展開がちっとも劇的じゃあないんだ。

2：じゃあ、このまるで現実みたいな。って言えばいい？

1：なんだって、現実の方がずっとましだ。

ずっとまし、どころじゃないぞ！！

あの貿易センタービルのツインタワーにジャンボがつっこんだんだ！

その後はアフガニスタンで戦争だ。

現実の方が遙かにミステリーでミリタリーで

タンソ菌がばらまかれて、

現実は遙かにスリリングでサスペンスでスペクタクルで

2：なんて言ったの？

1：現実は見栄えもするし、ワクワクする、ってことさ。

2：そんな言い方、不謹慎よ。

1：いいじゃないか。

指導者の奴らのうちの一人でいいからこういうべきだったんだ。

「戦争は悲劇だ。」とね。

あの時ニュースの方がずっと面白かったよ。

(現実をかたっているかのような丁寧さで「虚構の枠組み」やこそを強調)

2：演劇という虚構の枠組みの中だからこそ、出来る事もあるでしょう。

(投げやりな言い方で、

でもあまりにもやる気無い言い方は観客から見て不愉快になるので駄目)

1 : そうだな、なんでもやってやるよ。

箱の中の美女を入れ替えたり。

自由の女神を一瞬で消したり。

宝くじの当選番号を当てたり。

2 : マジックショーじゃなくて演劇よ。

1 : 空からパンが降ってきたり、

海が二つに割れたり。

2 : 奇跡を起こすのは別の人よ。

/\*(注釈) ユダヤ教、キリスト教系の神は時間ではない \*/

1 : 私は何をしろっていうんだ！、止まっているべきなのか。

他のモノが目にも「とめられぬ」速さで動いているというのに。

/\*(注釈) すべてがわからない社会とそこで何をすべきかわからない自分 \*/

## <<宗教の勧誘について>>

(BGM : そっとCI : 宗教曲出来ればキリスト教の教会音楽でマイナーなモノ。)

(しっかりと自分に天使の加護が降りてきている言い方で)

2 : 契約を更新いたしましょう。

(1にも何かのりうつつているかのように)

1 : あれから、もう、1000年以上たってるものな。

/\*(注釈) 最初の契約(旧約) 新しい契約(新約) \*/

2 : 神がわたしを遣わしました。

/\*(注釈) 新約は神からの福音 \*/

1 : 今回は何を払えばいい？

(妖しげな宗教家風に)

2 : 貴方も神にお祈りを。

( 傍白っぽく )

1 : 最後は宗教の勧誘だったな。

まったく勧誘という奴はお呼びでなくともやってくる。

失礼しましたー。と去っていく必要もない。

何を勧めるにしろ失礼な奴らだ。

2 : お祈りを。

1 : 私は祈りの言葉なんて知らないぞ。

2 : では、「愛してる」と5回。

1 : 愛？「愛してる」？

2 : 祈りよりも効果があります。

1 : 神を愛してどうなる。

2 : 神はおっしゃいました。汝の敵を愛せよ。と

1 : 確かに今あいつは敵だと思う。けどね、憎んじゃいない。

2：神はおっしやいました。右の頬を打たれたら、左の頬を差し出しなさい。と

1：右のビルを破壊されたら左のビルも差し出しなさい。

と言ったのか。それは素晴らしい、そのとおりになったんだよ。

2：神の愛は万能です。

1：神が万能だって？神は「神を演じる事」が不可能じゃないのか？

/\*(注釈)本当は神が神を演じることが可能である事がわかっている。\*/

2：神は神自身であるからして、それを演じる事は不可能である、  
とそういう事ですね。

1：そういうことだ。自分自身は真実の自分自身「である」わけで、  
それを「演じる」事は不可能だ。

演じることが可能なのは、「偽りの自分」とか、

「理想の自分」とかそういうものでね、

ああ、あるいは、「自分とは違う何か」だね。

2：では、あなたは神を演じられるのですか。

1：ああ、簡単さ。

(神がかって)

(照 明：MF少し落として)

「光あれ！」

(照 明：MF100%、UHと残ったサスペンション 素早くFI)

/\*(注釈) Let there be light. 旧約聖書創世記より\*/

2：ほおお、それで？

1：今日はこんだけさ。

2：これだけですか…。

1：そうさ。

今日、明日、明後日、明々後日、弥明後日、その次の日には  
それぞれ別な仕事がある。

2：(指折り数えて)6日かかっています、それから？

1：七日目は休みだ。働き過ぎは良くないからね。

2：休んだ後は？

1：たまにはやることをやるのさ。

まあ、どこかのだれかさんみたいにやたら浮気をしたりはしない。/\*ゼウス\*/

2：以外と退屈なものね。

1：そんなものだよ。

(忘れやすい！)

2：まあ、これであなたが神で無いことは証明されたわけね。

1：なぜだい。

2：自分自身を演じる事は出来ないんでしょう？

(少し希望を持って)

1：そうだったな。この調子で考えられる物を片っ端から演じていけば

いつか演技でない自分自身にたどりつけるのか。

2：まったく相容れない為に演じられないということもあるでしょう。

1：例えば？

2：（1を観察して）絶世の美女とか。

1：（考えて）それぐらいはなんとかするつもりだけどね。

（苦笑）勤勉な大学生、などは演じられないかもしれん。

2：まったく知らないモノも演じられないでしょう？

1：3億年後の\*\*\*\*（適当な場所）でメナってるアカマダラヘケケの幼虫とか？

2：1560年前の春の海でのたりのたりにしてるヒネモスとかね。

ある程度 自分に似ているモノの方が演じやすいでしょ。

演劇にしろ、劇中劇にしろ、劇中劇中劇にしろ、劇中劇中劇中劇中劇にしろね。

1：演じられないモノを探して自分自身を見つけるのは無理か。

2：残念ね。

（向き直り、切り返して）

1：しかし神を演じられたことで、

どうやらわたしは人間である可能性が大きくなった。

（照 明：元に戻すべく科白に合わせて少しずつFO）

2：人間以外は？

1：それもあるのだが、神は自分自身に似せて人間を造ったのだからね。

2：人間が自分たちに似せて神を造ったんでしょう。

1：現実はどうかもしれない、そう考えることが現実的だ。

しかしこの虚構の中では間違いなく私の言ったことが真実だ。

虚構の中では虚構的に考えた方が真実に近づける。

（だんだん早く）

2：ここは鏡の中？

1：そうだ。虚構だ。

2：映っているのは。

1：現実。

2：この虚構世界を造っているのは？

1：神だ。今でも彼はこの世界を作り続けている。

2：神はどこにいるの？

1：現実世界のどこかだ。

2：虚構世界は現実世界を映し出す鏡。

いま鏡の中に神が映っているとしたら。

1：神が映っている？ どこにだ！

2：神は自分自身に似せて、あなたを造った。

1：私が神であるとしたらそれは、

2：非常に虚構的な考えだと思わない？

1 : ああ、そうかもしれん、そして私は何をすべきだろう。

2 : 現実世界の彼は？

1 : 現実の彼は動き回る影法師、哀れな役者。

2 : じゃあ現実世界を造っているのは？

1 : ときだ。時間だよ。

今でも時は世界を作り続けている。

2 : 時はどこにいるの。

1 : 時はどこに居るんだろう。

例えばここに大きな柱時計、

目には見えないがこのあたり一面にチクタクという音、音、音。

この中だな！！

2 : そこには居ないわよ。

1 : だったら、さっきまで持っていた懐中時計は……

あ、あれ、どこにやってしまったんだ。（時計は心臓と同じ価値を持つモノとして）

2 : 時計は時間を量っているだけよ。

1 : 謀ったな！！（ここだけ特別に）

2 : 私は知らないわよ。

1 : いったい、どこへ入れたかな あの時計。

なんて事だ、秒針付きの本物の両蓋懐中時計だぞ。

おじいちゃんにもらったものなんだ。

落ちたのかもしれない、こいつは冗談じゃない。

\*(注釈)ゴドーでのポッツォの科白 ここ全体も引用\*/

2 : もしかして、上着のポケットじゃない？

1 : うーん、聞こえない。（上着のポケットの音を聞く）

ちょっと、聞いてみてくれないか。

2 : （同じように聞く。）

1 : チクタク鳴っているかな。

2 : 黙って。 、 、 、 、 、 、 心臓の音だけ。

1 : 屋敷に置いてきたんだ、多分。取ってこよう。（上手へと去る）

2 : （つぶやく）どこにいったのかしら。。（時間と1の両方を指す。）

（照 明：少し落とす。）

(2が歌っている。1は自分の台詞の少し前に入ってきて)

2：おーおきな、のっぽの古時計、おじいさんの時計、  
百年いつも動いていた、ごじまーんのとーけいさー。  
おじいさんの産まれた朝にかあてーきたとーけいさー、  
今はもー、動かない、その

1：(「その」を重ねて) その歌、おかしいよね。

2：何が？

1：産まれたのがおじいさんだったら怖くない？  
何年お腹の中に居たのか知らないけどさ。

2：はじめっから、老人で産まれてくるはず無いじゃない。  
お爺さんも産まれてくるときは赤ん坊なのよ。

1：でも。

2：きっと、この歌は孫の世代の視点で歌われているのよ。

1：孫が自分のお祖父さんが産まれた朝に時計を買ってくるのか？

2：う〜ん、ん、お祖母さんがその孫より年下の男と再婚すればなんとかなるわ。

1：あまり、ぞっとしないはなしだね。

2：う〜ん、わたしはぞっとする話だとおもうけど。

1：(少し考えて) 感覚の違いだね。

2：う〜ん、そうね。(納得している。)

1：きれいな、花嫁やって来たその日も動いてたんだぞ？

2：おばあさん、きれいだったんだね。

1：そうだな。

2：ねえ、さっき、

「この世界は私が産まれると同時に創り出された。」と言ったわね。

1：そんなこと言ったかな。

2：言ったわ。

1：君だって私と同じ頃に創られたんだぜ。

いや、ひょっとすると君の方が先だったかもしれん。

/\*(注釈)クロヌスよりエロスの方が先に産まれている。\*/

ここでは何もかもがいちどきに生まれてきたのさ。

2：あなたもわたしもいちどきに産まれてきた。

当然、お爺さんは老いたまま産まれてきたのね。

1：ああ、そういうことになるな。

2：老人のまま産まれてくるのよ。それって怖くない？

1：待て待て、老人には2種類のタイプがあるんだ。

2：わかってるわよ、お爺さんとお婆さんよね。

1：その分け方を考えたんじゃない。

2：山へ柴刈りに行くのと、川へ洗濯に行くのがあるのよね。(かわいげに)

1 : だから、そうじゃないんだ。

老人にはね、「私は長く生きてきたぞ！」というタイプと

「私はもうすぐ死ぬぞ！」というタイプがあるわけだ。

2 : 「もうすぐ死ぬぞ」タイプの老人は0からでもスタートできるのね。

世界が産まれると同時に産まれた、時は、時間は。

1 : 時は並ぶ物なきご老人。

お爺さんの時計は（回想傍白的に重く）最近はずっと9分前を指していた。

それが死ぬまでの時間。世界がそこで終わる。 /\*doomsdayclockの最後の時間\*/

/\*(注釈)原の台本が書かれた頃は変わる前だった。\*/

2 : お祖父さんは何をしているの。

1 : どこかで隠居生活。

（傍白にして）もう病院に居るかも知れないが、

/\*(注釈) 作者はよく病院にいる。 \*/

2 : 身を隠しているの。

1 : 時はいつでも謀られているからな。

2 : そんなはかりごとが成功するはずもないわ。

1 : 仕方ないじゃないか。

時に報復攻撃などされた日には終末がいくつあっても足りない。（少量の悲嘆）

2 : 週末はいくつでもあるわ。今の暦が続く限りずっと。

1 : 暦が続かないんだよ。

2 : もし暦がかわっても、

安息の定めのある日をヒトは週末と呼ぶんじゃないかしら。

金曜日・土曜日・日曜日、イスラム教・ユダヤ教・キリスト教、

全ての月曜日がハッピーマンデーになったら、

月曜日に休む新しい宗教を考えなくちゃ。

1 : WeekEndの話じゃないよ、doomsday、さ。

最後の審判、ラグナロク、アポカリプス、ハルマゲドン、黙示録。

終末が安息の日でなどあるものか。ああ、仏滅仏滅。

なんて事だ。時は滅んでしまったのか。

2 : まだ、大丈夫なんじゃないかしら。ほら、優優とか。

佐渡島で飼育してるんでしょ。

1 : それは朱鷺だ。

この世界では時間までが不正を働く。

きっと、やつも今頃、牢獄の中にいるのさ。

2 : 時は牢獄の中で物語を書き続けているわよ。

そう、たしかあれは...（誰だったか思い出す。）、

マルキド・サドみたいに。

1 : それはいかんな、ろくでもない世界が生まれそうだ。

ここをソドムにはしたくない。

時を殺さねば！！やつはどこに居る。

2：サド・トキ保護センター。

1：今こそ、民衆の力を見せるとき、私の鎌を取ってくれ！

2：どうやって行く気？

1：翼があるさ。行くぞ！！

(上手、下手に別れて消える。)

(照明：全暗転：)

(照明：特サスでセンターのみ)

(出てくる) 1：言葉の迷宮を飛び立ち塀の向こうの現実世界をかいま見た。

2：真実に近づきすぎて、またこの世界に落ちてきてしまったが、

そこには虚構には考えられない不思議な世界があった。

1：この虚構世界を創っている虚構の為の神は

2：現実世界では作者と呼ばれている。

1：現実世界の人々はこの虚構世界を、狂った妄想の世界と考えていた。

2：現実世界を創っている現実の為の神をこの世界では役者が演じている。

1：虚構世界の人々にとってあの現実世界は狂った思想の世界。

(照明：元に戻す。)

2：ちょっとがんばりすぎたわね。

1：関節がはずれてしまった。

/\*time is out of joint ハムレットより\*/

2：私が、それを直すために産まれてきたなんて。

1：(老人っぽく)すまないねえ。

2：作者は現実に、時は虚構に。

1：わたしは、時間か、どう演じればいいのか。

2：かいま見た、あの現実の世界を物語として書きつづけるのよ。

1：あんな世界を創らないといけないとは、

2：時は牢獄の中で物語を書いているんでしょ。

あなたさっき、自分でそう言っていたじゃない。

1：ああ、この世界は牢獄だ。

その中には独房あり、地下牢あり、取調室なんかもたくさんあるんだが、中でもここは一番悪質な方だぞ。

2：そうは、思えません。

1：君にとってはそうじゃないのだ。物の善し悪しは考え方一つ。

私にとっては牢獄なんだ。

2：それは、野望や欲望の為でしょう。

/\*(注釈) 世界が悪くなる理由は \*/

1：何を言うか！私は、例えクルミの殻のなかに押し込められようとも、

自分は無限の天地の王者を演じられるだろう！！

/\* ここ一連 ハムレット \*/

(MF 30%、ピンスポット)

## <<王様の物語>>

1：わが民らよ、遠きカドモスの末裔たる子らよ、  
どうしたというのだそこに座って、手に持った榊は嘆願の徴。  
都はいま祭壇にたかれた護摩の煙が至る所にたちこめ、  
祈りと嘆きがかどかどにきこゆ。  
我が民らよ、そのわけは人ずてに聞くをよしとせず、  
人皆にその名も隠れ無きオイディプスが、  
直々にここへやって参った。  
さあ、翁よ、話してみるが良い、  
そなたはここにおる皆をまとめて、余に口を聞くにもふさわしい者。  
ここに訪ねてきたお前達が心の裡をさらすが良い。  
何の憂い、何の願いだ？  
この私はどんなことをしてでもお前達の助けになるつもり。  
まことにもしこのような嘆願に心を動かされないとしたら、  
私は血も涙もない男というべきであろう。

/\*(注釈) ソフォクレスの「オイディプス」通称『王』チュラノスと呼ばれる \*/

(MF 55%、ピンスポットoff)

2：されば、この無限の天地をすべて、広すぎる大宇宙を統べる王様。  
あなたはこれ以上何を望んでおられるのですか？  
故郷を離れ、この船で旅すること幾光年、皆、疲れ切っております。  
あくまでも宇宙の果てまで行かれると言うのですか？  
このまま宇宙を一周して宇宙が丸いことを証明なさるおつもりですか？  
真実を求めることは重要かもしれません。  
しかし宇宙が丸くても、平ペったくても我々には関係ないことです。  
突拍子もない真実ではなく、良くできすぎた嘘を信じればいいのです。  
その方がいろいろ、お得なのです。  
わざわざ火あぶりになるのが天才ではありません。  
地球の隅っこで「それでも宇宙は回っている」とそう、  
うそぶけば良いではありませんか。  
謎は謎のままで良いのです。  
宇宙の果ては「はて？」のままにしておきましょう。  
故郷を離れ、この船で旅すること幾光年、皆、疲れ切っております。  
ここで新大陸でも発見されないことには格好が付きませぬぞ。  
1：何を次元の低い話をしているのだ。

私はすでに幅も高さも奥行きもすべて手に入れてしまったのだ。

次に目指すのはすべての時間だ。すべての時間を手に入れたいのだ。

/\*(注釈) 時間は4つ目の次元。\*/

2：いままで多くの王が不老不死を求めました。

しかし、それを手に入れた者はただの一人もおりません。

1：それがあつのだ、時から逃げ回れば良いのだ。

時がその翼で追いつがり、その鎌でわれわれの命を削るより早く逃げればよいのだ。

この光速に近い速さで動く船に乗っていればそうそう時は追いつけぬ。

今頃 地球にいる私の双子の弟は私より遙かに年を取っているはずだろう。

2：特殊相対性理論における、ウラシマ効果ですか。

しかし、我々にとって感じられる時間に違いは無いのですから、

私はこの船の中で過ごす一生よりも、地球で皆と暮らす一生の方が良いと思いますぞ。

1：地球とて宇宙の中にあることは変わらぬ。

この世のすべては出会いと別れ、

愛と憎しみでかたちづくられている。

/\*(注釈) 初期ギリシャ哲学 北欧哲学原始系\*/

君らは我が身一つの愛情と憎悪を抱えて居るだけだから

気づくこともあるまいが、宇宙は悲しみに満ちている。

引力の鎖も間に合わず星星の間は目にも止められぬ速さで広がり続ける。

宇宙は増大し続けるエントロピーを捨てるゴミ捨て場、

なぜ憎しみばかりが大きくなるのだ。

(照明：暗転：MF 0%)

(BGM：雷の魔法： ) /\*(注釈)クロヌスはゼウスに倒される。\*/

(照明：CI-CO-FI つけ消しゆっくり付く：MF 90%)

1：どうした、何が起こつたんだ！。

2：向こうに引力の強い金属が！！

/\*(注釈) ハムレットより オフィーリアの魅力\*/

1：艦をを立て直せ！！

2：だめです、どんどん渦の中に、

メイルシュトロームの奥に引き込まれています。

/\*(注釈)\*/

(BGM：FI：悲しげな音楽)

1：失われし愛の力か、この穴に何があるというのだ。

/\*(注釈)

ブラックホールと言うよりは

ハイナーミュラー「ハムレットマシーン」の

母上には穴が一つ少なければ良かったのに。 の科白。

\*/

2：もうだめです、だめです、だめです。

私は先に行かせていただきます。

/\*(注釈)イオカステ\*/

(2、上手へと消える)

1：弟よ！我が子よ！君はそこにいるのか？

/\*(注釈) オイディプスにとって自分の子は自分の兄弟でもある。\*/

1：かつては名高き謎の解き手、  
権勢並ぶ物無く國中こぞりて、  
幸運をうらやみ仰ぎてみしものを。  
ああ 轟々たる悲運の黒き渦が、  
たちまちにして飲み込まれてしまった。  
されば死すべき人の身は  
はるかにかの最後の日の見極めを待て。  
何らの苦しみにも逢わずして  
この世の際にいたるまでは、  
何人をも幸福とは呼ぶ無かれ。

/\*(注釈) ソフォクレスの「オイディプス」 最後の合唱\*/

(2、上手から出てくる。)

## <<バベルの党の話>>

2：「台本どおりにやれ！！」って叫んでましたよ、なにやら過激に。

1：ファンダメンタリズムが現代の流れとは言うが、  
あんまり過激なことをされるのは困るな。

2：ええっと、ふあんた...なんてっけ？

1：ファンダメンタリズム、覚えて置き給え大切な単語だ。

2：どうしてあなたはそう難しいカタカナを使いたがるのかしら。

1：仕方ないじゃないか、  
原理主義という日本語はなにやら不穏な色彩になってしまったんだから。

2：言葉って難しいわ。 で、どこまで戻ればいいの。

1：たしか、君が歌っているところから。 3番から始めよう。

2：そう。じゃあ、行くわよ。  
ま～夜中にベルが鳴～た。おじいさんの時計～  
お別れ一の、と一きがき一たのを、みなに一おしえ一たのさ一。

1：もう少し、君の歌い方が下手だったら、

2：何よ。失礼ね。

1：時間を殺すんじゃないだろうか。

2：その科白、日本語で言ってもわからない。

/\* murdering the time \*/

1：そうか。でもそれは私が悪いんじゃない。

2 : 誰が悪いの。  
1 : バベルの塔を考えた人間さ。  
2 : バベルの塔。  
1 : 超ウルトラスーパー高層ビル計画。  
2 : なんで、そんなものを造ろうとしたの。  
1 : 公共事業は大きな利権だ、儲かる業者が放ってはおかない。  
2 : 莫大なお金が動く、多くのヒトが集まる。  
計画は大きければ大きいほど良いつて訳ね。  
1 : しかし、突然の中止命令。  
2 : どうして？  
1 : 財政難だ、国の赤字が膨らみすぎた。  
2 : 仕方ないわね、バベルの塔より、バブルの後始末の方が大変よ。  
1 : しかし、納得がいかない、業界、自治体、官僚、族議員。  
神の不信任決議が衆議院で可決された。  
2 : だからって神が責任取って辞職、なんてわけにはいかないわ。  
1 : そこで神は議会解散を宣言した！  
人間の言葉はバラバラにされた、言葉ごとに選挙区が出来た。  
2 : 選挙区ごとにさまざまな立候補者が現れた。

## <<神の選挙に関する年表>>

(BGM : キング牧師とかヒットラーとか、現時点の大統領や首相の演説をミキシング)

1 : 3千年以上前、砂漠の地方にも神への立候補者が現れた。  
モーゼという賢い参謀のもとに有力な政党、ユダヤ党が誕生した。  
2 : 苦しみの元にいた地元民を救い、地盤固めを行っていった。  
1 : 2千年と少し前、ユダヤ党の神には2世が誕生した。  
2 : 一部の人々はその子も神の座へと担ぎ上げた。  
ここにキリスト党が生まれた。  
1 : 一部の人々はキリスト党を認めなかった。  
2 : キリスト党は地元を越えて、周り一帯の票を集めた。  
1 : ユダヤ党とキリスト党の間で長い争いが起こった。  
2 : 6世紀、ムハンマドという偉い指導者の元、イスラム党が誕生した。  
アラーを神を立てるべく人々は集い。  
1 : アラーは戦いによって、神の座への票田を確保していった。  
2 : 11世紀の終わり、キリスト党とユダヤ党は連合してイスラム党と争い始めた。  
1 : イスラム党との争いが治まると、  
またキリスト党とユダヤ党との争いが起こった。  
2 : 16世紀前半、そのキリスト党が分裂。

1 : 分裂は分裂を生みいくつもの争いが起きた。

2 : 逃げた人々は自由の女神を立てた。赤い旗の元に無党派を名乗る地域も出来た。

/\*(注釈)自由主義、共産主義\*/

1 : 19世紀、イタリアとドイツと日本では、  
自分たち国の未だ生きている人間を神への立候補者に選んだ。

/\*(注釈)ファシズム\*/

1 : その国の人たちはそれに熱中した。

そして、自由の女神や赤い旗やユダヤ党を攻撃し始めた。

2 : 大きな戦争が起こった。負けた側は人間が神になれない事が証明された。

/\*(注釈)第2次世界大戦\*/

1 : 勝った側の内部では自由の女神と赤い旗がにらみ合いを始めた。

/\*(注釈)冷戦\*/

2 : 1990年代初頭、無党派層の本拠地が崩れ、大きな転換を迎えた。

/\*(注釈)ソビエト崩壊\*/

1 : 敵を失って争いは無くなったように見えた。

2 : それでもユダヤ党、キリスト党、イスラム党、保守政党たちが  
お互いの陣営を巡って争いを続けた。

/\*(注釈)現代から未来へにおける勢力争い\*/

1 : 若手の黨員たちはそんな党から分裂してつぎつぎと新党を作り始めた。

2 : 21世紀

どこかの政党の過激派が飛行機で作りかけのバベルの塔に突っ込んだ！！

/\*(注釈)米国同時多発テロ そのときの事件\*/

(BGM cut off)

## <<神話の終わり>>

1 : いつまでたっても神話は終わらない。

2 : せめてすべての安息日を一緒にしてしまえば、

あの現実世界が少し平和になるのに。

/\*(注釈)ユダヤ教(金曜日)、イスラム教(土曜日)、キリスト教(日曜日) 国家神道(月月火水木金) (笑)\*/

1 : ずっと、Weekendにしちまったほうがいいな。週休7日制さ。

2 : 神話の終わりはこう記されるべきね。

真の平和の中ですべき事は何もなかった。

神はその座に就いて永久に休まれた。

神が休まれたことにちなんで人々が

週のうち7日を休みにするようにと定められたのである。

1 : やすんでるのかなあ、神は。

2 : なにやってんだか。

1 : ここに来て流れが少し滞りがちな気はするな。

いよいよ行き詰まってきたか、

ちょっとって神の様子を見てこいよ。

(2,戻ってくる。)

2：もっと、ストーリー性だって、アレゴリーも必要なんだって。

劇というのは自ずから一つの寓話となっていなければならない。

そう、のったまっておりますですよ、はい。

1：だったら、むかーし、昔。から始めなきゃいけなかったんだ。

もう、そろそろ、劇も終盤じゃないか！

2：終盤ね。

それを聞いて安心したヒトがたくさん居ると思うわ。

わたしもそのうちのひとり、ほんとにそうだといいんだけど。

1：それでも世の中、問題だらけだ。

2：世紀末と終末とを勘違いした人々が大勢居たけど、

ノストラダムスもY2Kも

結局のところ、カタストロフィーを運んできてはくれなかった。

1：かたの付かない、課題達が、私の肩にのしかかる。

これを芝居というのなら、デウス・エクス・マキナ、全てを終わらせ給え！

/\*(注釈) ギリシャの古典劇 終盤に大がかりな装置に乗って現れる神\*/

2：現実の終わりは遙かな先でも、芝居という芸術は人生よりも遙かに短い。

/\*\*/

1：今度こそ終わりにしなきゃな。

## <<終盤を目指したような物語>>

2：終わり、終わり、尾張名古屋は城で持つ。

1：やっぱり、締め言葉は「めでたし、めでたし」かい。

2：甲斐は山梨、武田信玄。

何がめでたいの？

1：その前は「いつまでも幸せに暮らしましたとさ」だね。

2：とさとさとさ、土佐は高知の鯉のたたき。

誰が幸せに暮らしたの？

おじいさんは死んじゃった、おばあさんはとっくに居ない。

時は止まってしまった。

1：とうとうみんないなくなった。

2：遠江[とうとうみ]?ちょっと苦しいわね。

諸国を巡りながら、どこかで落ちに入ると思ったのに。

1：水戸黄門はいいよね、

最後に印籠を見せるだけで済むんだから。

まさにデウス・エクス・マキナの日本版。

2：でも、あれっていつまでも続いているわよ。

1：何人も別な人に変えてね。

そんだけ見ている人が居るんだろ。

2：私たちを見ている方はいらっしゃるのでしょうか。

/\*(注釈) 観客 \*/

1：わからない、でも信じるしかない、

居ないなんて考えるとむなしいじゃないか。

2：でも、そのために終わる事が出来ないとしたら、

1：向こうに向かって「帰れー」って叫んでみるか？

2：止めなさいよ、

向こうに観客が居るだろうということだけが、

今信じられる唯一の希望なんだから。

1：宗旨替えか？神が妬むぞ。 /\*(注釈) 作者から観客へ \*/

/\*(注釈) ユダヤ教の神は自ら「妬む神なれば」としている \*/

2：それが唯一でも無ければ、絶対でも無いことはわかって居るはずよ。

/\*(注釈) \*/

1：まあな、結局偉さがちがう。

2：偉いの？

1：偉い、すごい。

2：すごいのか？

1：現実の人々はみなずっとアドリブで生きて居るんだぞ。（言い聞かせ）

2：そうよね。

1：だから、せめて、お客様が納得の出来る結末を。

我々がそれを求めるのは贅沢だろうか。

（観客を意識して、舞台端に出てきて。）

2：起承転結どころかストーリーさえ危うい極限状態で？

1：果たしてどうなるか、覚悟は決めておかなければ、

そろそろだ、行って来るか？

2：ええ。

（2：行って戻ってくる。）

## <<神は見捨てられた>>

1：何だ、なんかすごい厚いぞ。

2：中身も熱いわよ。別な意味で。

1：なんだ？ 「ねむい、ねむい、ねむい、ねむい、パンおいしー。」

（激怒） 逝って良し！！ （原稿を叩きつける。）

/\*(注釈) ショックワード \*/

2：てゆうか、逝っちゃってる。

1：いや、そういうことでは、いや、えーっと。あああああああああ、

も————う、どうでもいい。

2：ああああ。（原稿を拾い集める。）

1：神様、わたしをお哀れみください！！（観客席に向けて）

2：ちょっと、わたしは？

1：わたしです、わたしを！わたしをお哀れみください。

/\*(注釈) 科白3つつ、ゴドーを待ちながら\*/

2：困った「時」の神頼みね。

神にも出来ないことがあるんじゃないっけ。

1：奴は万能さ、死ぬことすら不可能じゃなかった！！

/\*\*/

2：ちょっと、逝っちゃってるだけよ。

別に死んでいるわけじゃないわ。

1：演ってられないよ。ただ、流れているままさ。

ためらいながら近づき、一瞬にして走り抜け、そこに立ちあぐねている。

後ろ向きには進めない。

時間か……。なんてものをやらせるんだ。

/\*\*/

2：書いてる人もかなりつらいの。

1：君は何なの。

2：愛。

/\*(注釈) ショックワード？ \*/

1：それも大変だな。

2：ええ、そうね。あ、雪！

(BGM：最後：)

1：雪？

2：そう、ほら。

1：雪……。まだ、そんな季節では...というより、季節なんてあったのか？

私はそんなことは決めていないんだ。

ということは、今は冬か。（身震いして）

2：あら、違う、これは、破いた紙だわ。

1：おいおい、約束事には従うんだ。

/\*(注釈) 最初の方で出てきた科白から \*/

2：約束事！？

1：素に戻ってはいけない。紙吹雪は雪なのだ。そうきまっている。

2：貴方にもこれは紙切れに見えると思うわ。

1：これは！...なるほど、原稿の破片だ。

2：この続きが書いてあったのかしら。

1：奴め、この世界を放り出した。

2：神よ、我が神、なぜにわたしを見捨てたまいし？

/\*(注釈) キリスト最後の言葉 \*/

1 : きっともうこれ以上続けられなくなってんだ。

/\*(注釈) 私もそろそろこの台本を書くのがつらくなりました。\*/

2 : これから、どうなるの。

1 : さあ、あの雪に書いてあるかもしれないが。

2 : 頑張ってつなぎ合わせてみましょうか。

1 : 止めておこう、戯れ言 /\*(注釈)戯曲の戯\*/ が書かれているだけだ。

そんなのをやってみても、ろくな事にならない。

/\*(注釈) playerとしての役者ではない人物へ!

playは遊び の意味で \*/

2 : でも、

1 : 不安かい。

2 : ...当然でしょ。 /\*(注釈)神の不在を考える実存主義\*/

1 : そうか。

2 : あなたは?

1 : 考えるのは止めよう、本当に自由になったんだ。

/\*(注釈)いとうせいこう「ゴドーは待たれながら」\*/

2 : あの2000年間のモラトリアムが切れて、人類の自立がやってくるとき。

/\*(注釈) モラトリアム=猶予期間 \*/

1 : 今 我々は大きな不安の中で

苦しみ、悶え、あえぎ、よろけ、這いつくばって。

2 : のたうち回って、咳き込み、うめき、それでもまだ叫び声をあげて。

1 : それでも生きなければ!生きなければ!!

/\*(注釈)チェーホフ「三人姉妹」より

近代リアリズム劇からも取ってみた、ってところなんだけど。

こういう部分だけ抜き出しても別にリアルになるわけじゃないようです。\*/

2 : どうして、生きなければならないの。

こんな、ちっぽけな自分が生きている理由がどこにあるの?

自分自身という存在さえ不確かで。

1 : そう思っている自分が確かに居るんじゃないか!

/\*(注釈) デカルト <我思うゆえに我あり。>\*/

2 : もう、そう思っているかどうかすら妖しく

消え入りそうになっているの!!

1 : 大丈夫だ、私が君の事を思っていてあげよう。

2 : ...安い台詞ね。

1 : .....

そのうち台詞じゃなくなる。自分自身でしゃべらなければならない。

2 : 後は沈黙。

/\*(注釈) ハムレット 臨終の科白 \*/

(1, 2 空を見上げている)

1 : ...

2 : 本当の自由、、、、、、、

これが、時の終わりなのかしら。

1：さあね。何にせよ、最初と対して変わらないんじゃないだろうか。

1：行くぞ。

(2、うなずく。)(二人、舞台から出ていってしまう)

(照明：客電、遅くFI、併せてMFもFO 0%まで)

(BGM：切れ目から客だしへ！)

[終わり]

(戯曲) 『0人芝居』

<http://p.booklog.jp/book/29106>

著者：青豆

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/aomura10106/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/29106>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/29106>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.